

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2018-56995

(P2018-56995A)

(43) 公開日 平成30年4月5日(2018.4.5)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
H04N 1/00 (2006.01)	H04N 1/00 107Z	5C062
G06F 21/41 (2013.01)	H04N 1/00 C	
	G06F 21/41	

審査請求 有 請求項の数 17 O L (全 22 頁)

(21) 出願番号	特願2017-198659 (P2017-198659)	(71) 出願人	000001007
(22) 出願日	平成29年10月12日 (2017.10.12)		キヤノン株式会社
(62) 分割の表示	特願2016-157721 (P2016-157721)		東京都大田区下丸子3丁目30番2号
	の分割	(74) 代理人	100125254
原出願日	平成23年11月22日 (2011.11.22)		弁理士 別役 重尚
		(72) 発明者	森田 裕康
			東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キ
			ヤノン株式会社内
		Fターム(参考)	5C062 AA02 AA05 AA13 AA35 AB02
			AB17 AB20 AB22 AB23 AB38
			AB42 AC02 AC04 AC05 AC22
			AC34 AF02 AF12

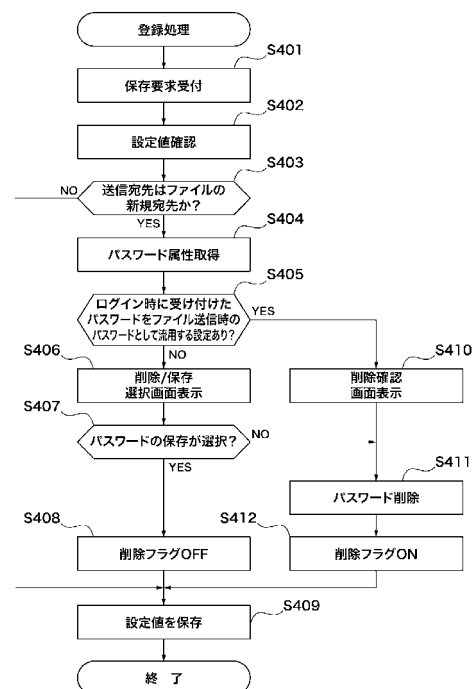
(54) 【発明の名称】 データ送信装置及びその制御方法、並びにプログラム

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】他の装置にデータを送信するために用いられる認証情報の入力に関する操作性を向上させたデータ送信装置及びその制御方法、並びにプログラムを提供する。

【解決手段】画像処理装置は、サーバにデータを送信するためのアドレス情報、プロトコル情報、データのファイル形式情報、及び、サーバがユーザを認証するための第1の認証情報を少なくとも含む設定情報に基づいて、データをサーバに送信し、ユーザの登録指示に基づいて、アドレス情報、プロトコル情報、及び、データのファイル形式を示す情報を少なくとも含み、第1の認証情報を含まない設定情報を登録し、ユーザが画像処理装置にログインすることでユーザのログイン情報に基づいて取得した第2の認証情報と、ユーザからの登録指示に基づいて登録された設定情報に含まれる、アドレス情報、プロトコル情報、及び、データのファイル形式情報とを、送信処理を実行するための設定情報として設定する。

【選択図】図9



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

サーバにデータを送信するデータ送信装置であって、

前記サーバにデータを送信するためのアドレス情報、前記サーバにデータを送信するプロトコルを示す情報、送信されるデータのファイル形式を示す情報、及び、前記サーバがユーザを認証するための第 1 の認証情報を少なくとも含む設定情報に基づいて、データを前記サーバに送信する送信手段と、

前記設定情報を登録するための登録指示をユーザから受け付ける登録指示受付手段と、

前記登録指示に基づいて、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を少なくとも含み、前記第 1 の認証情報を含まない設定情報を登録する登録手段と、

前記登録手段によって登録された設定情報を呼び出すための呼出指示をユーザから受け付ける呼出指示受付手段と、

前記ユーザが前記データ送信装置にログインすることで前記ユーザのログイン情報に基づいて取得した第 2 の認証情報と、前記登録手段によって登録された前記設定情報に含まれる、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報と、を前記送信手段が送信処理を実行するための設定情報として設定する設定手段と、を有することを特徴とするデータ送信装置。

【請求項 2】

前記アドレス情報は、前記サーバのホスト名と前記サーバのフォルダ名であることを特徴とする請求項 1 に記載のデータ送信装置。

【請求項 3】

前記登録手段によって登録されるアドレス情報は、新規宛先であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のデータ送信装置。

【請求項 4】

前記プロトコルを示す情報は、ファックス送信を示すプロトコル、メール送信を示すプロトコル、及びファイル送信を示すプロトコルのいずれかであることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 5】

前記設定情報は、送信されるデータのファイル名を示す情報を含むことを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 6】

前記サーバはファイルサーバであることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 7】

前記第 1 の認証情報と前記第 2 の認証情報はパスワードであることを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 8】

原稿の画像を読み取る読取手段を更に有し、

前記送信手段は、前記読取手段で読み取られた画像から生成されたデータを前記サーバに送信することを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 9】

前記第 1 の認証情報が登録されないことを通知する通知手段を更に有することを特徴とする請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 10】

前記第 1 の認証情報を含まない設定情報を登録するか、前記第 1 の認証情報を含む設定情報を登録するかを前記ユーザに問い合わせる問い合わせ手段を更に有することを特徴とする請求項 1 乃至 9 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 11】

前記送信手段によりデータを送信する度に認証情報を前記ユーザから受け付ける設定が

10

20

30

40

50

前記データ送信装置にされている場合に、前記登録手段は、前記登録指示に基づいて、前記設定情報から前記第1の認証情報を削除して登録することを特徴とする請求項1乃至10のいずれか1項に記載のデータ送信装置。

【請求項12】

前記登録手段によって前記設定情報を登録する際に前記第1の認証情報としてユーザのログイン情報を保存する設定が前記データ送信装置にされている場合であっても、前記登録手段は、前記設定情報から前記第1の認証情報を削除して登録することを特徴とする請求項1乃至11のいずれか1項に記載のデータ送信装置。

【請求項13】

前記呼出指示受付手段が前記呼出指示を受け付けることに応じて、前記設定手段は、前記第2の認証情報を前記送信手段が送信処理を実行するための設定情報として設定することを特徴とする請求項1乃至12のいずれか1項に記載のデータ送信装置。

【請求項14】

サーバにデータを送信するデータ送信装置の制御方法であって、

前記サーバにデータを送信するためのアドレス情報、前記サーバにデータを送信するプロトコルを示す情報、送信されるデータのファイル形式を示す情報、及び、前記サーバがユーザを認証するための第1の認証情報を少なくとも含む設定情報に従って、データを前記サーバに送信する送信ステップと、

前記設定情報を登録するための登録指示をユーザから受け付ける登録指示受付ステップと、

前記登録指示に基づいて、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を少なくとも含み、前記第1の認証情報を含まない設定情報を登録する登録ステップと、

前記登録ステップで登録された設定情報を呼び出すための呼出指示をユーザから受け付ける呼出指示受付ステップと、

前記ユーザが前記データ送信装置にログインすることで前記ユーザのログイン情報に基づいて取得した第2の認証情報と、前記登録ステップで登録された前記設定情報に含まれる前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報と、を前記送信ステップで送信処理を実行するための設定情報として設定する設定ステップと、

を有することを特徴とするデータ送信装置の制御方法。

【請求項15】

サーバにデータを送信するデータ送信装置の制御方法をコンピュータに実行させるためのプログラムであって、

前記データ送信装置の制御方法は、

前記サーバにデータを送信するためのアドレス情報、前記サーバにデータを送信するプロトコルを示す情報、送信されるデータのファイル形式を示す情報、及び、前記サーバがユーザを認証するための第1の認証情報を少なくとも含む設定情報に従って、データを前記サーバに送信する送信ステップと、

前記設定情報を登録するための登録指示をユーザから受け付ける登録指示受付ステップと、

前記登録指示に基づいて、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を少なくとも含み、前記第1の認証情報を含まない設定情報を登録する登録ステップと、

前記登録ステップで登録された設定情報を呼び出すための呼出指示をユーザから受け付ける呼出指示受付ステップと、

前記ユーザが前記データ送信装置にログインすることで前記ユーザのログイン情報に基づいて取得した第2の認証情報と、前記登録ステップで登録された前記設定情報に含まれる、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報と、を前記送信ステップで送信処理を実行するための設定情報として

10

20

30

40

50

設定する設定ステップと、
を有することを特徴とするプログラム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、データ送信装置及びその制御方法、並びにプログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

近年、コピー機能のみならず、ファクス機能、ネットワークスキャン機能、プリント機能など、複数の機能を実行することが出来る複合機が広く使われるようになってきている。通常、これら複合機は、タッチスクリーン機能を持つ操作パネルとハードキーを有する操作部を備えており、ユーザは、操作パネル上に表示された機能一覧から所望の機能を呼び出し、機器を操作する。

10

【0003】

また、セキュリティの確保や課金の為に、ユーザが機器を利用する際、ユーザ認証を要求することも行われている。この場合、ユーザはタッチパネルまたはカード等を利用して認証を行い、認証が成功すると、機器を使用可能となる。

【0004】

ここで、ユーザがネットワークスキャン機能を使用し、その送信先である他の装置がファイルサーバであった場合、ユーザは、送信宛先情報として、ファイルサーバのIPアドレスまたはホスト名、送信先フォルダ、ログインするユーザ名、パスワードを指定する。

20

【0005】

読み取り解像度であれば、300×300dpi、読み取りサイズはA4、ファイル形式はPDF等所望のファイル形式を設定する。更に原稿を読み取る際のカラーモードや、送信文書名等が設定されることもある。

【0006】

複合機は、これらの設定に従い原稿を読み込み、読み込んだ画像を指定された通信手段を用いて、指定された宛先に送信する。

【0007】

このように、送信時に指定可能な設定は多岐に渡るため、ユーザの設定操作を簡便にしたいという要望がある。

30

【0008】

前述したファイルサーバへの送信である場合、ファイルサーバにログインする認証情報は、機器を操作しているユーザに紐づいている場合が多い。このため、ユーザが機器を使用する際の認証に用いた認証情報を、ユーザに改めて入力させることなく、ファイルサーバにログインする際の認証情報に用いることも行われている。

【0009】

また、ユーザが実行する送信処理は定型的なものであることも多く、一旦入力された送信宛先や読み取り設定などの送信時の設定を、良く使う設定として機器に保存することも行われている。ユーザは、保存内容を割り当てた所定のボタンを押下することで設定を呼出すことが出来、これにより、ユーザの送信設定操作を容易になる。

40

【0010】

前述のファイルサーバへの送信設定をユーザが保存したければ、送信設定が完了した後、操作パネルに表示されたメニューを操作し、送信設定を良く使う設定として、機器に保存することが出来る。

【0011】

このような機器に保存してある設定が、呼び出し時に常に有効とは限らない。例えば、パスワードに有効期限が設定されていて、呼び出し時にはファイルサーバへのパスワードが、有効でない可能性もあり得る。このような時、ユーザが機器に保存してある設定を呼び出し送信すると、送信エラーになってしまう。

50

【 0 0 1 2 】

そこで、IDやパスワードを含めた認証情報を用いてアクセスする機能を有する認証情報設定装置において、装置に保存している認証情報の有効期限が切れていた場合、再設定する仕組みを設ける情報設定装置が提案されている（例えば特許文献1参照）。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 1 3 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 0 1 - 1 6 7 0 5 1 号 公 報

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

10

【 0 0 1 4 】

しかしながら、パスワードのような認証情報には、一定期間後に有効期限が切れるようなものだけでなく、機器を使用するユーザがログイン中のみ有効なものもある。そのような認証情報は、機器に保存しても意味が無いだけでなく、セキュリティの観点からも好ましくない。

【 0 0 1 5 】

一方、ユーザの設定操作を簡便にするためには、機器に保存された良く使う設定を呼び出したとき、ユーザに改めて設定操作を行わせないことが求められる。例えば、認証情報を良く使う設定に保存しなかった場合に、呼び出し時に毎回ユーザに入力を要求するようでは、操作性の観点から好ましくない。

20

【 0 0 1 6 】

本発明の目的は、他の装置にデータを送信するために用いられる認証情報の入力に関する操作性を向上させたデータ送信装置及びその制御方法、並びにプログラムを提供することにある。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 7 】

上記目的を達成するために、本発明におけるデータ送信装置は、サーバにデータを送信するデータ送信装置であって、前記サーバにデータを送信するためのアドレス情報、前記サーバにデータを送信するプロトコルを示す情報、送信されるデータのファイル形式を示す情報、及び、前記サーバがユーザを認証するための第1の認証情報を少なくとも含む設定情報に基づいて、データを前記サーバに送信する送信手段と、前記設定情報を登録するための登録指示をユーザから受け付ける登録指示受付手段と、前記登録指示に基づいて、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を少なくとも含み、前記第1の認証情報を含まない設定情報を登録する登録手段と、前記登録手段によって登録された設定情報を呼び出すための呼出指示をユーザから受け付ける呼出指示受付手段と、前記ユーザが前記データ送信装置にログインすることで前記ユーザのログイン情報に基づいて取得した第2の認証情報と、前記登録手段によって登録された前記設定情報に含まれる、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報と、を前記送信手段が送信処理を実行するための設定情報として設定する設定手段と、を有することを特徴とする。

30

40

【 発明の効果 】

【 0 0 1 8 】

本発明によれば、他の装置にデータを送信するために用いられる認証情報の入力に関する操作性を向上させたデータ送信装置及びその制御方法、並びにプログラムを提供することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 9 】

【 図 1 】 本発明の実施の形態に係る画像処理装置の概略構成を示す図である。

【 図 2 】 図 1 における画像処理装置のソフトウェア構成を示す図である。

【 図 3 】 本実施の形態が適用される画像処理システムを示す図である。

50

【図４】図１における操作部に表示されるホーム画面の一例を示す図である。

【図５】図１における操作部に表示されるスキャン操作画面（その１）の一例を示す図である。

【図６】図１における操作部に表示されるスキャン操作画面（その２）の一例を示す図である。

【図７】図１における操作部に表示される良く使う設定画面の一例を示す図である。

【図８】図１におけるメモリ上の履歴に格納されている、良く使う設定情報の一例を示す図である。

【図９】図１におけるＣＰＵにより実行される登録処理の手順を示すフローチャートである。

10

【図１０】画面例を示す図であり、（Ａ）は削除保存画面の一例を示し、（Ｂ）は削除確認画面の一例を示している。

【図１１】図１におけるＣＰＵにより実行される読み出し処理の手順を示すフローチャートである。

【図１２】宛先入力画面を示す図である。

【図１３】図１におけるＣＰＵにより実行される登録処理の手順を示すフローチャートである。

【図１４】図１におけるＣＰＵにより実行される読み出し処理の手順を示すフローチャートである。

【発明を実施するための形態】

20

【００２０】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳述する。

【００２１】

なお、本実施の形態では、本発明の実施の形態に係るデータ送信装置を、画像処理装置に適用させた形態について説明する。

【００２２】

〔第１の実施の形態〕

図１は、本発明の実施の形態に係る画像処理装置の概略構成を示す図である。

【００２３】

図１において、画像処理装置１００は、電子写真方式等の方式で記録紙上に画像を形成する画像形成部１０１、画像処理装置１００を統御する制御部１０２を備えている。また、画像処理装置１００は、ステイブル処理等の後処理を行うフィニッシャ１０３、原稿画像を読み取るスキャナ部１０４、各種のデータやコマンドを入力する操作部１０５を備えている。

30

【００２４】

さらに、画像処理装置１００は、ネットワークを介して画像データ送受信するネットワークインタフェース１０６、ファクスデータ等を送受信のファクスインタフェース１０７、及び機器を使用するユーザ認証を行うカードリーダー１１０も備えている。

【００２５】

そして、これら画像形成部１０１、フィニッシャ１０３、スキャナ部１０４、操作部１０５、ネットワークインタフェース１０６、ファクスインタフェース１０７は、それぞれ専用インタフェースで制御部１０２に接続されている。

40

【００２６】

また、制御部１０２は、ＣＰＵ（中央処理装置）１０８とメモリ（記憶手段）１０９とにより、その主要部が構成されている。

【００２７】

メモリ１０９には、図９、図１１、図１３、図１４のフローチャートに対応する制御プログラム、図４～７、図１０、図１２に示した設定ダイアログ・ボックス等の制御プログラム、及び操作画面情報を記述したコンテンツ等が格納されている。

【００２８】

50

図 2 は、図 1 における画像処理装置 100 のソフトウェア構成を示す図である。

【0029】

図 2 において、UI 制御部 201 は、操作部 105 に操作画面を表示し、ユーザの操作を受け付けるユーザインタフェース (UI) を制御する。スキャン制御部 202 は、スキャナ部 104 を制御し、原稿画像を読み取る処理を制御する。

【0030】

送信制御部 203 は、スキャン制御部 202 が読み取った画像データを、ネットワークインタフェース 106 を用いてユーザが指定した宛先に送信する処理を制御する。ファクス制御部 204 は、ファクスインタフェース 107 を用いて、ファクスの送受信を制御する。

【0031】

ジョブ管理部 205 は、UI 制御部 201 が受け付けたユーザの送信要求、及びその実行状態を管理する。画像管理部 206 は、スキャナ部 104 で読み取った画像の管理情報を管理する。送信設定管理部 207 は、ユーザの指示により、機器に保存または機器から読み出す送信設定を管理する。

【0032】

図 3 は、本実施の形態が適用される画像処理システム 300 を示す図である。

【0033】

図 3 において、上述した画像処理装置 100、サーバコンピュータ 302、及び認証サーバ 303 が示されている。

【0034】

サーバコンピュータ 302 は、原稿をスキャンした画像データを送信する他の装置に対応する。このサーバコンピュータには、表示部 321 及び入力装置 322 が接続されている。

【0035】

また、認証サーバ 303 は、画像処理装置 100、及びサーバコンピュータ 302 を使用する際、ユーザ認証を司る。これらは、ネットワークインタフェースを介して、それぞれネットワークに接続されている。

【0036】

図 4 は、図 1 における操作部 105 に表示されるホーム画面の一例を示す図である。

【0037】

図 4 において、所望の処理を行う操作画面を呼び出すアプリケーション選択ボタン 601 が表示されている。この例では、コピー機能、ネットワークスキャン機能、ファクス機能、ボックス機能の各々の操作画面を呼び出す「コピー」ボタン 606、「スキャン」ボタン 607、「ファクス」ボタン 608、「ボックス」ボタン 609 が表示されている。

【0038】

また、テンキー 602、ジョブ開始を指示するスタートキー 603 が配置されている。更に、機器の設定画面を呼び出す「設定・登録」画面呼び出しボタン 604 や、ジョブの履歴・状況画面を呼び出す「履歴・状況」ボタン 605 も配置されている。

【0039】

図 5 は、図 1 における操作部 105 に表示されるスキャン操作画面 (その 1) の一例を示す図である。

【0040】

図 5 のスキャン操作画面は、図 4 で示した「スキャン」ボタン 607 をユーザが押下することで、操作部 105 に表示される。この図では、送信宛先を指定可能な宛先入力ボタン 701 が表示されている。

【0041】

宛先の入力方法は、「アドレス帳」「ワンタッチ」「新規宛先」いずれの方法でも可能である。送信設定ボタン 702 は、読み取り解像度、読み取りカラーモード等の送信設定を設定するためのボタンである。応用設定ボタン 703 は、読み取り、送信時のさまざまな詳

10

20

30

40

50

細設定を呼び出すためのボタンである。

【 0 0 4 2 】

また、保存された送信設定を呼び出す「良く使う設定」ボタン 7 0 4 も表示されている。

【 0 0 4 3 】

このスキャン操作画面では、電子メール送信およびファイル送信が可能である。また、機器の設定によっては、ファクス送信も可能である。

【 0 0 4 4 】

図 6 は、図 1 における操作部 1 0 5 に表示されるスキャン操作画面（その 2）の一例を示す図である。

【 0 0 4 5 】

図 6 のスキャン操作画面は、ユーザが送信宛先等、送信設定を行った場合の画面である。

【 0 0 4 6 】

図 6 において、ユーザが指定した送信宛先が送信宛先一覧リスト 7 1 1 に表示されている。送信宛先の詳細を表示する詳細情報ボタン 7 1 2 も表示されている。送信設定ボタンには設定値が反映され、ファイル形式ボタンのキャプションは P D F（O C R）となっている。また、送信ファイル名等、応用設定がなされたことを示すために、応用設定ボタン 7 0 3 は反転表示している。

【 0 0 4 7 】

図 7 は、図 1 における操作部 1 0 5 に表示される良く使う設定画面の一例を示す図である。

【 0 0 4 8 】

この良く使う設定画面は、図 4 における「良く使う設定」ボタン 7 0 4 をユーザが押下することで、操作部 1 0 5 に表示される。

【 0 0 4 9 】

図 7 において、ユーザが登録した「良く使う設定」ボタン 8 0 1、現在の送信設定を新たに登録する登録ボタン 8 0 2、及び既存のボタンの編集を行うボタン 8 0 3 が表示されている。なお、図 7 において、「良く使う設定」ボタン 8 0 1 は、「サーバ 1 共有 1」、「サーバ 1 報告書」、「F a x 本社週報」、及び「メール一斉通達」の各々のボタンを指している。

【 0 0 5 0 】

ユーザは、所望の「良く使う設定」ボタン 8 0 1 を押下することで、ボタンに紐づけられた設定情報を呼び出し、送信設定に反映することが出来る。また、登録ボタン 8 0 2 を押下することで、送信設定を登録することが出来る。

【 0 0 5 1 】

図 8 は、図 1 におけるメモリ 1 0 9 上の履歴に格納されている、良く使う設定情報（送信設定情報）の一例を示す図である。

【 0 0 5 2 】

よく使う設定情報は、宛先情報 8 1 1、読み取り設定情報 8 1 2、ファイル形式 8 1 3、及びその他 8 1 4 で構成される。

【 0 0 5 3 】

宛先情報 8 1 1 は、送信するプロトコルに応じた情報である。この例では「ファイル」となっていて、ファイル送信に必要な情報である。また、宛先情報 8 1 1 には、他の装置での認証に用いられる認証情報としてのパスワードが含まれる。

【 0 0 5 4 】

読み取り設定情報 8 1 2 は、サイズ及び解像度を示す情報であり、図 8 では、読み取りサイズは「自動検知」、読み取り解像度 3 0 0 x 3 0 0 d p i となっている。

【 0 0 5 5 】

ファイル形式 8 1 3 はファイルの形式を示し、図 8 では、高圧縮 P D F、そして O C R

10

20

30

40

50

を用いた形式を示している。その他 8 1 4 は、上記情報以外の情報であり、図 8 では、送信ファイル名となっている。

【 0 0 5 6 】

図 9 は、図 1 における C P U 1 0 8 により実行される登録処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 0 5 7 】

図 9 の登録処理は、現在設定されている送信設定を良く使う設定に登録する処理を示しており、このプログラムはメモリ 1 0 9 に格納されている。

【 0 0 5 8 】

図 9 において、U I 制御部 2 0 1 で、ユーザによる保存要求を受け付ける（ステップ S 4 0 1 ）。具体的には、ユーザがスキャン操作画面から、宛先入力ボタン 7 0 1 や送信設定ボタン 7 0 2 等を操作し所望の送信設定を行った後、「良く使う設定」ボタン 7 0 4 を押下して良く使う設定画面を開き、登録ボタン 8 0 2 を押下することで保存要求をすることが出来る。

【 0 0 5 9 】

次いで、保存要求された送信設定の設定値を確認する（ステップ S 4 0 2 ）。そして、U I 制御部 2 0 1 は、確認した設定値における送信設定に含まれる送信宛先が、ファイル送信の新規宛先か否かを判別する（ステップ S 4 0 3 ）。

【 0 0 6 0 】

ステップ S 4 0 3 の判別の結果、新規宛先ではないとき（ステップ S 4 0 3 で N O ）、送信設定にはパスワードは含まれていないので、送信設定管理部 2 0 7 に処理を依頼し、そのまま設定値を保存して（ステップ S 4 0 9 ）、本処理を終了する。

【 0 0 6 1 】

具体的に U I 制御部 2 0 1 は、ステップ S 4 0 1 で受け付けた送信設定の保存要求を送信設定管理部 2 0 7 に渡す。そして、送信設定管理部 2 0 7 は、設定値をメモリ 1 0 9 の所定の領域に保存する。

【 0 0 6 2 】

一方、ステップ S 4 0 3 の判別の結果、新規宛先するとき（ステップ S 4 0 3 で Y E S ）、送信設定にはパスワードは含まれており、これが永続的でない可能性がある。そこで、U I 制御部 2 0 1 は、ステップ S 4 0 1 で受け付けた送信設定に含まれるパスワードに関する属性情報を取得し（ステップ S 4 0 4 ）、ユーザが画像処理装置 1 0 0 にログインしたときに受け付けたパスワードをファイル送信時に要求されるパスワードに流量するか否かを判別する（ステップ S 4 0 5 ）。

【 0 0 6 3 】

すなわち、ファイル送信時に要求されるパスワードが画像処理装置 1 0 0 にログインする際の認証に用いられるパスワードと同じパスワードであり、画像処理装置 1 0 0 にログインする際に用いられるパスワードを流用する設定であるログイン情報連動の設定となっているか否かを判別する。すなわち、メモリ 1 0 9 には、画像処理装置 1 0 0 にログインする際に認証のために用いたパスワードが記憶されている。

【 0 0 6 4 】

または、ファイルを送信する時にパスワードをユーザから受け付ける設定が画像処理装置 1 0 0 にされている場合は、S 4 0 5 で N O と判定されることになる。

【 0 0 6 5 】

ステップ S 4 0 5 で Y E S と判別されたとき、これを良く使う設定へ保存するか否かをユーザの判断に委ねるための削除保存選択画面を表示する（ステップ S 4 0 6 ）。すなわち、ファイルの送信宛先とともにファイルの送信時に要求される認証情報を登録することを許可する。この削除保存選択画面の詳細は後述する。

【 0 0 6 6 】

次いで、ユーザがパスワードの保存を選択したか否かを判別する（ステップ S 4 0 7 ）。ステップ S 4 0 7 の判別の結果、パスワードの保存が選択されたとき（ステップ S 4 0 7

10

20

30

40

50

でYES)、パスワードを保存し、良く使う設定に保存するパスワード削除フラグをOFFに設定し(ステップS408)、上記ステップS409に進む。

【0067】

一方、ステップS407の判別の結果、パスワードの保存が選択されなかったとき(ステップS407でNO)、UI制御部201は、ステップS401で受け付けた送信設定に含まれるパスワードを削除する(ステップS411)。

【0068】

そして、良く使う設定に保存するパスワード削除フラグをONに設定し(ステップS412)、上記ステップS409に進む。

【0069】

上記ステップS405でNOと判定された場合、このパスワードはユーザが画像処理装置100にログインしている間だけ有効な情報であり永続的ではないので、これを良く使う設定へ保存することは好ましくない。

【0070】

そこで、UI制御部201は、ファイルの送信宛先とともに認証情報を登録することを禁止するために、削除確認画面を表示し(ステップS410)、上記ステップS411に進む。この削除確認画面の詳細は後述する。

【0071】

このように、良く使う設定に保存する送信設定にパスワードが含まれている場合、ログイン時に受け付けたパスワードをファイル送信時のパスワードとして流用する設定の有無に応じて、適切に保存処理を行うことが可能となる。

【0072】

図10は画面例を示す図であり、(A)は削除保存画面の一例を示し、(B)は削除確認画面の一例を示している。

【0073】

図10において、削除保存画面には、「パスワード情報が含まれています。パスワード情報を除いて登録しますか?」と示され、良く使う設定へ保存するか否かをユーザの判断に委ねる画面となっている。

【0074】

また、削除確認画面には、「パスワード情報が含まれています。パスワード情報を除いて登録します。」と示され、ユーザにパスワードを削除することを通知する画面となっている。なお、上記削除保存画面、及び削除確認画面は、ポップアップ画面として表示してもよい。

【0075】

図11は、図1におけるCPU108により実行される読み出し処理の手順を示すフローチャートである。

【0076】

図11の読み出し処理は、良く使う設定に登録されている設定値を読み出す処理を示しており、このプログラムはメモリ109に格納されている。

【0077】

図11において、UI制御部201で、ユーザによる読み出し要求を受け付ける(ステップS401)。具体的には、ユーザは、良く使う設定画面に表示されている「良く使う設定」ボタン801から、所望のボタンを押下することで、読み出し要求をすることができる。

【0078】

次いで、UI制御部201は、受け付けた読み出し要求を、送信設定管理部207に渡す。送信設定管理部207は、受け付けた良く使う設定に紐づいた送信設定を、メモリ109の所定の保存領域から読み出す(ステップS502)。

【0079】

そして、UI制御部201は、読み出した送信設定に含まれる送信宛先が、ファイル送

10

20

30

40

50

信の新規宛先か否か判別する（ステップ S 5 0 3 ）。

【 0 0 8 0 】

ステップ S 5 0 3 の判別の結果、送信宛先が新規宛先ではないとき（ステップ S 5 0 3 で N O ）、送信設定にはパスワードは含まれておらず、そのまま読み出して構わない。そこで、U I 制御部 2 0 1 は、ステップ S 5 0 2 で読み出した送信設定を、現在の送信設定として設定し（ステップ S 5 1 0 ）、本処理を終了する。

【 0 0 8 1 】

一方、ステップ S 5 0 3 の判別の結果、送信宛先が新規宛先するとき（ステップ S 5 0 3 で Y E S ）、U I 制御部 2 0 1 はステップ S 5 0 2 で読み出した設定値に含まれるパスワード削除フラグを確認し、フラグが O N であるか否か判別する（ステップ S 5 0 4 ）。

10

【 0 0 8 2 】

ステップ S 5 0 4 の判別の結果、フラグが O N ではないとき（ステップ S 5 0 4 で N O ）、パスワードは削除されていないこととなる。

【 0 0 8 3 】

そこで、U I 制御部 2 0 1 は、ステップ S 5 0 2 で読み出した設定値に含まれるユーザ名、パスワードを送信宛先のユーザ名、パスワードに設定し（ステップ S 5 0 9 ）、上記ステップ S 5 1 0 に進む。

【 0 0 8 4 】

一方、ステップ S 5 0 4 の判別の結果、フラグが O N のとき（ステップ S 5 0 4 で Y E S ）、パスワードは削除されていることとなる。そこで、U I 制御部 2 0 1 で、機器の設定を参照し、認証連動設定がなされているか否か判別する（ステップ S 5 0 5 ）。

20

【 0 0 8 5 】

ステップ S 5 0 5 の判別の結果、認証連動設定がなされているとき（ステップ S 5 0 5 で Y E S ）、ユーザ認証機能を用いて特定したユーザに紐づいた認証情報を、送信時の認証情報に利用することが出来る。

【 0 0 8 6 】

そこで、U I 制御部 2 0 1 は、認証連動設定が、ログイン情報連動か否か判別する（ステップ S 5 0 6 ）。ステップ S 5 0 6 の判別の結果、認証連動設定がログイン情報連動であったとき（ステップ S 5 0 6 で Y E S ）、ユーザが機器を利用する際に用いた認証情報を、送信時にも利用することができる。

30

【 0 0 8 7 】

そこで、ユーザがカードリーダー 1 1 0 を用いて機器を利用する際に用いた認証情報であるログイン情報を参照し（ステップ S 5 0 7 ）、ユーザ名とパスワードを取得し（ステップ S 5 0 8 ）、上記ステップ S 5 0 9 に進む。

【 0 0 8 8 】

一方、ステップ S 5 0 6 の判別の結果、認証連動設定がログイン情報連動ではないとき（ステップ S 5 0 6 で N O ）、ユーザに紐づいた認証情報は、ユーザが鍵束に登録した情報を利用することとなる。

【 0 0 8 9 】

そこで、U I 制御部 2 0 1 は、鍵束を参照することで（ステップ S 5 1 1 ）、ユーザ認証機能を用いて特定したユーザに紐づいた認証情報を参照し、ユーザ名とパスワードを取得し（ステップ S 5 1 2 ）、上記ステップ S 5 0 9 に進む。すなわち、他の装置に再びデータを送信する際に、認証情報が保存されていないときには、画像処理装置 1 0 0 を操作するユーザに紐づいた鍵束に登録された認証情報を送信設定情報に反映させる。

40

【 0 0 9 0 】

上記ステップ S 5 0 5 の判別の結果、認証連動設定がなされていないとき（ステップ S 5 0 5 で N O ）、機器に認証連動設定はなされていないこととなる。

【 0 0 9 1 】

そこで、U I 制御部 2 0 1 は、宛先入力画面を表示し、ユーザに入力を促す（ステップ S 5 1 3 ）。この宛先入力画面については後述する。

50

【 0 0 9 2 】

次いで、UI制御部201は、ユーザがパスワード入力フィールド1004に入力したパスワードを取得し（ステップS514）、上記ステップS509に進む。

【 0 0 9 3 】

なお、図11ではファイル宛先に含まれるパスワードについて説明したが、ファイル宛先のパスワードに限らず、送信設定に含まれる他のパスワードに関しても適用出来る。例えば、送信ファイル形式として、ファイル操作権限管理サーバから取得したファイル操作権限を、ファイルに付加されるものを指定することも可能である。このとき、保存、または読み出しする送信設定に、ファイル操作権限管理サーバにアクセスするパスワードが含まれる場合がある。

10

【 0 0 9 4 】

この場合、ステップS403は、送信設定に、ファイル操作権限管理サーバにアクセスするパスワードが含まれているか否かを判定するものとなる。また、ステップS503は、読み出した送信設定に含まれるファイル形式が、ファイル操作権限付きのものであるか否かを判定するものとなる。

【 0 0 9 5 】

上述した図11、及び図9の処理によれば、ファイル送信時に他の装置により要求される認証情報が、他の装置に再びデータを送信する際にも使用可能な認証情報である永続的な情報であるか否かを判別する（ステップS405）。そして、認証情報が永続的な情報であると判別されたとき、認証情報を保存する（ステップS408）。次いで、図11で説明するように、他の装置に再びデータを送信する際に、認証情報が保存されているときには、当該認証情報を送信設定情報に反映させる（ステップS509）。その結果、他の装置にデータを送信するために用いられる認証情報の入力に関する操作性を向上させることができる。

20

【 0 0 9 6 】

図12は、宛先入力画面を示す図である。

【 0 0 9 7 】

図12に示される宛先入力画面は、UI制御部201が操作部105に表示するファイル宛先入力画面の一例を示している。この画面では、ホスト名入力フィールド1001、フォルダ名入力フィールド1002、ユーザ名入力フィールド1003、パスワード入力フィールド1004が表示されている。そして、これらフィールドにユーザが入力することとなる。

30

【 0 0 9 8 】

〔 第2の実施の形態 〕

第2の実施の形態における画像処理装置の構成は、第1の実施の形態における画像処理装置100と同じであるので、説明を省略する。

【 0 0 9 9 】

上述した第1の実施の形態では、パスワードが永続的なか否かを、新規宛先のファイル送信のパスワードの属性情報を参照して判断していた。一方、パスワードが常に変更されるため、アドレス帳にファイル送信の宛先を登録する際、パスワードは都度入力であるという指定をして登録することがある。

40

【 0 1 0 0 】

ユーザが、送信先として、都度入力指定されたファイル送信宛先を指定すると、送信の度にパスワードを入力が求められる。

【 0 1 0 1 】

良く使う設定に登録する送信宛先がこのような都度入力が必要な場合、そのパスワードはやはり永続的では無い。

【 0 1 0 2 】

図13は、図1におけるCPU108により実行される登録処理の手順を示すフローチャートである。

50

【 0 1 0 3 】

図 1 3 の登録処理は、現在設定されている送信設定を良く使う設定に登録する処理を示しており、このプログラムはメモリ 1 0 9 に格納されている。

【 0 1 0 4 】

図 1 3 において、UI 制御部 2 0 1 で、ユーザが指示した、送信設定の良く使う設定への保存要求を受け付け（ステップ S 1 1 0 1 ）、受け付けた保存要求がされた送信設定の設定値を確認する（ステップ S 1 1 0 2 ）。

【 0 1 0 5 】

次いで、UI 制御部 2 0 1 は、確認した設定値における送信設定に含まれる送信宛先が、ファイル送信のアドレス帳宛先か否か判別する（ステップ S 1 1 0 3 ）。

10

【 0 1 0 6 】

ステップ S 1 1 0 3 の判別の結果、アドレス帳宛先ではないとき（ステップ S 1 1 0 3 で N O ）、そのまま保存して構わないので、UI 制御部 2 0 1 は、受け付けた保存要求での送信設定を送信設定管理部 2 0 7 に渡す。

【 0 1 0 7 】

そして、送信設定管理部 2 0 7 は、設定値をメモリ 1 0 9 上の所定の領域に保存し（ステップ S 1 1 0 9 ）、本処理を終了する。

【 0 1 0 8 】

一方、ステップ S 1 1 0 3 の判別の結果、アドレス帳宛先のとき（ステップ S 1 1 0 3 で Y E S ）、パスワード都度入力設定がされている可能性があり、パスワードが永続的でない可能性がある。

20

【 0 1 0 9 】

そこで、UI 制御部 2 0 1 は、受け付けた保存要求での送信設定に含まれる送信宛先のアドレス帳宛先の属性を取得し（ステップ S 1 1 0 4 ）、パスワード都度入力が指定されているか否か判別する（ステップ S 1 1 0 5 ）。

【 0 1 1 0 】

ステップ S 1 1 0 5 の判別の結果、パスワード都度入力が指定されていないとき（ステップ S 1 1 0 5 で N O ）、このパスワードは永続的であり、上記ステップ S 1 1 0 9 に進む。

【 0 1 1 1 】

一方、ステップ S 1 1 0 5 の判別の結果、パスワード都度入力が指定されているとき（ステップ S 1 1 0 5 で Y E S ）、このパスワードは永続的ではなく、これを良く使う設定へ保存することは好ましくない。

30

【 0 1 1 2 】

そこで、UI 制御部 2 0 1 は、上述した図 1 0 （ B ）に示した削除確認画面を表示して、ユーザにパスワードを削除することを通知する（ステップ S 1 1 0 6 ）。次いで、受け付けた保存要求での送信設定に含まれる都度入力パスワードを削除し（ステップ S 1 1 0 7 ）、良く使う設定に保存するパスワード削除フラグを O N に設定し（ステップ S 1 1 0 8 ）、上記ステップ S 1 1 0 9 に進む。

【 0 1 1 3 】

第 2 の実施の形態における読み出し処理は、図 1 1 のフローチャートにおけるステップ S 5 0 3 で、読み出した送信設定に含まれる送信宛先が、ファイル送信のアドレス帳宛先か否かを判別すること以外は、図 1 1 と同じである。

40

【 0 1 1 4 】

[第 3 の実施の形態]

第 3 の実施の形態における画像処理装置の構成は、第 1 の実施の形態における画像処理装置 1 0 0 と同じであるので、説明を省略する。

【 0 1 1 5 】

第 1 , 2 の実施の形態では、ファイル送信宛先を含んだ良く使う呼び出す際、機器の設定に応じてユーザ名、パスワードは登録時の物ではなく、呼び出し時のものを設定してい

50

た。

【 0 1 1 6 】

これを、ユーザ名、パスワードだけでなく、送信先ホスト名、フォルダ名も、呼び出し時のものを設定することも考えられる。

【 0 1 1 7 】

例えば、セキュリティの観点から、機器の設定で、ファイル送信は個々のユーザに紐づいた特定のフォルダにしか送信できないという設定もあり得る。この場合は、ユーザに紐づいた送信先ホスト名、フォルダ名も、ユーザがログインしている時のみ有効で、永続的でないと考えられる。

【 0 1 1 8 】

図 1 4 は、図 1 における C P U 1 0 8 により実行される読み出し処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 1 1 9 】

図 1 4 の読み出し処理は、現在設定されている送信設定を良く使う設定に登録する処理を示しており、このプログラムはメモリ 1 0 9 に格納されている。

【 0 1 2 0 】

図 1 4 において、U I 制御部 2 0 1 で、ユーザによる読み出し要求を受け付ける（ステップ S 1 2 0 1）。具体的には、ユーザは、良く使う設定画面に表示されている「良く使う設定」ボタン 8 0 1 から、所望のボタンを押下することで、読み出し要求をすることができる。

【 0 1 2 1 】

次いで、U I 制御部 2 0 1 は、受け付けた読み出し要求を、送信設定管理部 2 0 7 に渡す。送信設定管理部 2 0 7 は、受け付けた良く使う設定に紐づいた送信設定を、メモリ 1 0 9 の所定の保存領域から読み出す（ステップ S 1 2 0 2）。

【 0 1 2 2 】

次いで、U I 制御部 2 0 1 は、U I 制御部 2 0 1 で、機器の設定を参照し、ファイル送信先は、ユーザに紐づいたマイフォルダ（MyFolder）に限定する設定がなされているか否か判別する（ステップ S 1 2 0 3）。

【 0 1 2 3 】

ステップ S 1 2 0 3 の判別の結果、マイフォルダに限定する設定がなされていないとき（ステップ S 1 2 0 3 で N O）、U I 制御部 2 0 1 は機器の設定を参照する。そして、認証連動設定を確認し（ステップ S 1 2 1 1）、ユーザ名、パスワードを取得する（ステップ S 1 2 1 2）。

【 0 1 2 4 】

次いで、取得したユーザ名、パスワードを送信宛先に設定し（S 1 2 1 3）、ステップ S 1 2 0 2 で読み出した他の送信設定と共に、現在の送信設定として設定し（ステップ S 1 2 0 8）、本処理を終了する。

【 0 1 2 5 】

上述した S 1 2 1 1 ~ S 1 2 1 3 の処理の詳細は、図 1 1 のフローチャートにおけるステップ S 5 0 5 ~ ステップ S 5 0 9、ステップ S 5 1 1 ~ ステップ S 5 1 4 の処理である。

【 0 1 2 6 】

ステップ S 1 2 0 3 の判別の結果、マイフォルダに限定する設定がなされているとき（ステップ S 1 2 0 3 で Y E S）、U I 制御部 2 0 1 は機器の設定を参照する。そして、ユーザに紐づくマイフォルダ情報が認証サーバで管理されているか否か判別する（ステップ S 1 2 0 4）。

【 0 1 2 7 】

ステップ S 1 2 0 4 の判別の結果、マイフォルダに限定する設定がなされているとき（ステップ S 1 2 0 4 で Y E S）、U I 制御部 2 0 1 は、ユーザが機器を操作する際の認証時に得られたログイン情報を参照する（ステップ S 1 2 0 5）。

10

20

30

40

50

【 0 1 2 8 】

そして、認証サーバで管理されているユーザに紐づくホスト名、フォルダ名および、ユーザ名、パスワードを取得する（ステップ S 1 2 0 6 ）。

【 0 1 2 9 】

次いで、送信宛先に、ステップ S 1 2 0 6 で取得したホスト名、フォルダ名、ユーザ名、パスワードを設定し（ステップ S 1 2 0 7 ）、上記ステップ S 1 2 0 8 に進む。

【 0 1 3 0 】

上記ステップ S 1 2 0 4 の判別の結果、マイフォルダに限定する設定がなされていないとき（ステップ S 1 2 0 4 で N O ）、U I 制御部 2 0 1 は、鍵束を参照する（ステップ S 1 2 0 9 ）。そして、ユーザが登録したユーザに紐づくホスト名、フォルダ名および、ユーザ名、パスワードを取得し（ステップ S 1 2 1 0 ）、上記ステップ S 1 2 0 7 に進む。

10

【 0 1 3 1 】

（他の実施の形態）

本発明は、以下の処理を実行することによっても実現される。即ち、上述した実施形態の機能を実現するソフトウェア（プログラム）をネットワーク又は各種記憶媒体を介してシステム或いは装置に供給し、そのシステム或いは装置のコンピュータ（又は C P U や M P U 等）がプログラムコードを読み出して実行する処理である。この場合、そのプログラム、及び該プログラムを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

【 符号の説明 】

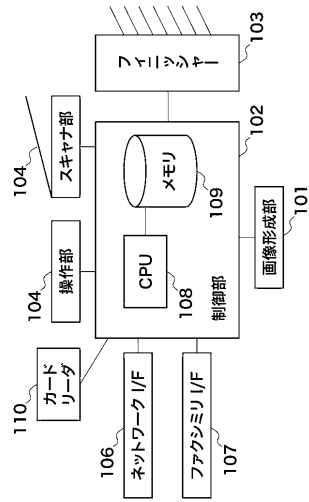
【 0 1 3 2 】

20

- 1 0 0 画像処理装置
- 1 0 5 操作部
- 1 0 6 ネットワーク I / F
- 1 0 8 C P U
- 1 0 9 メモリ
- 1 1 0 カードリーダー
- 2 0 1 U I 制御部
- 2 0 2 スキャン制御部
- 2 0 3 送信制御部
- 2 0 4 ファックス制御部
- 2 0 5 ジョブ管理部
- 2 0 6 画像管理部
- 2 0 7 送信設定管理部

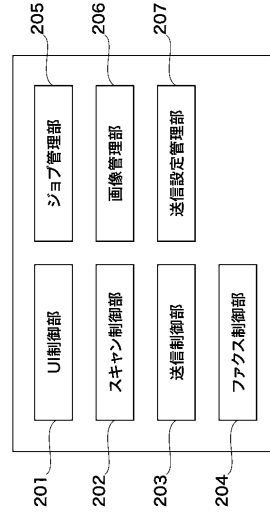
30

【図 1】

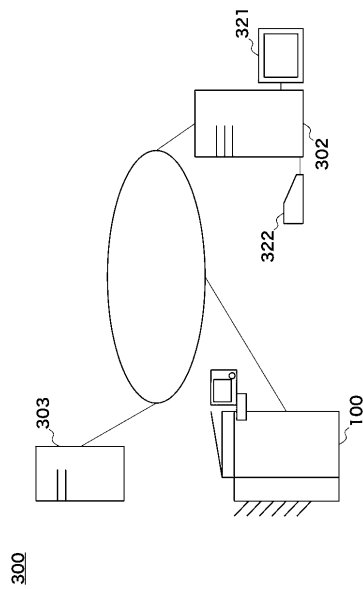


100

【図 2】

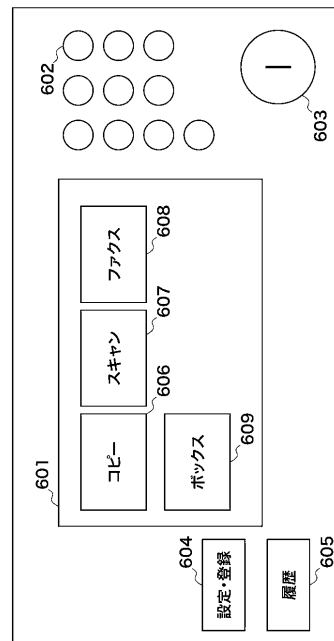


【図 3】

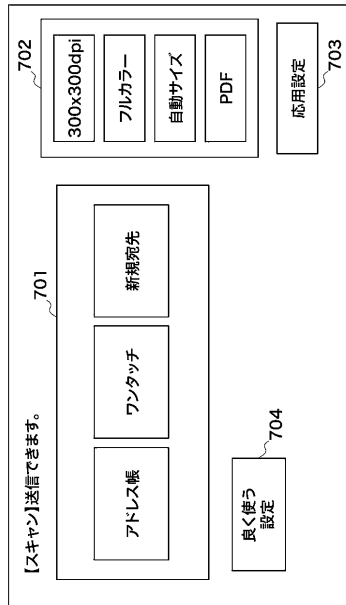


300

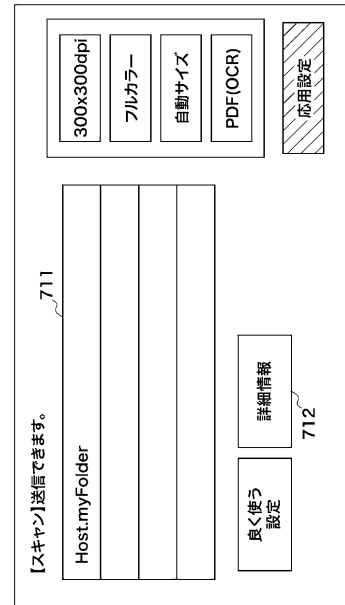
【図 4】



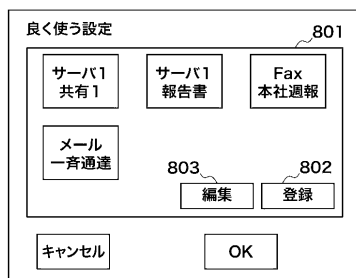
【図 5】



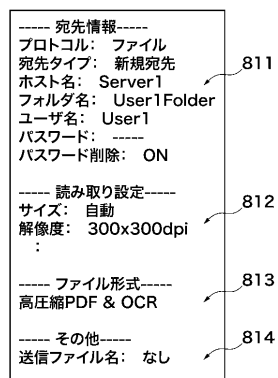
【図 6】



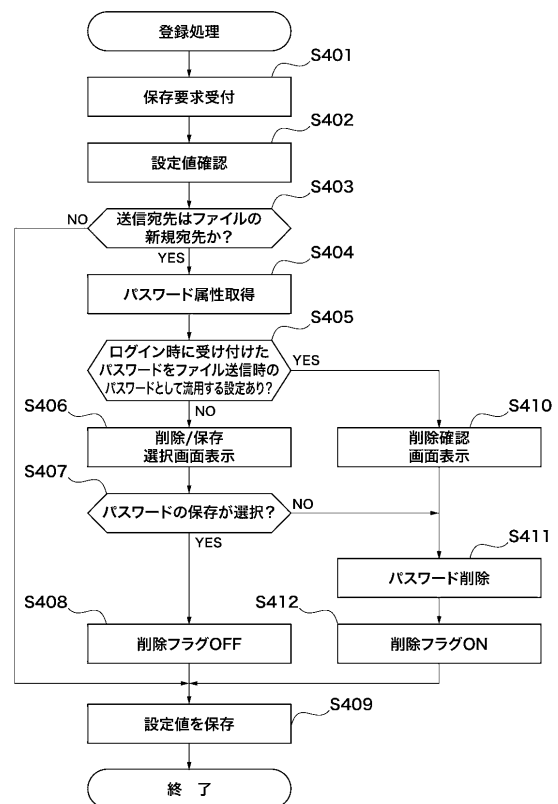
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

(B)

パスワード情報が含まれています。
パスワードと情報を除いて登録します。

はい

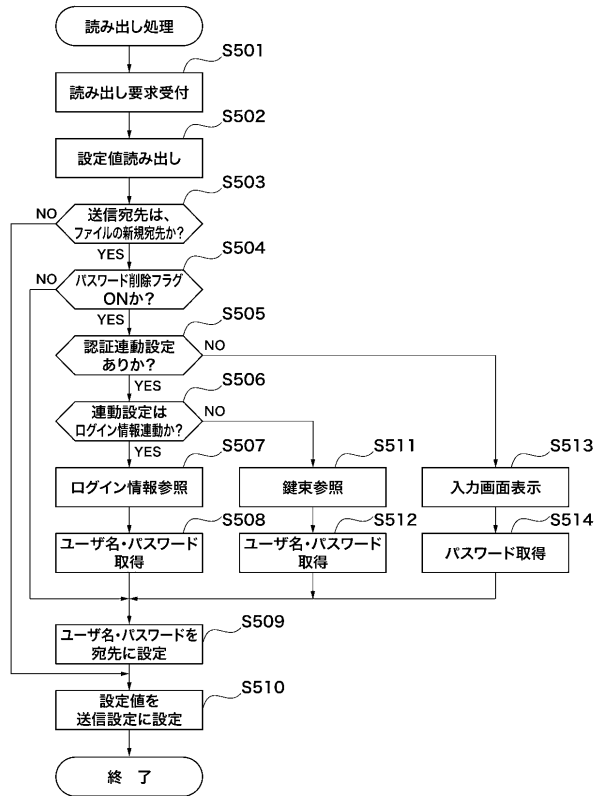
(A)

パスワード情報が含まれています。
パスワードと情報を除いて登録しますか？

はい

いいえ

【図 11】



【図 12】

ファイル宛先

1001

ホスト名:

1002

フォルダ名:

1003

ユーザ名:

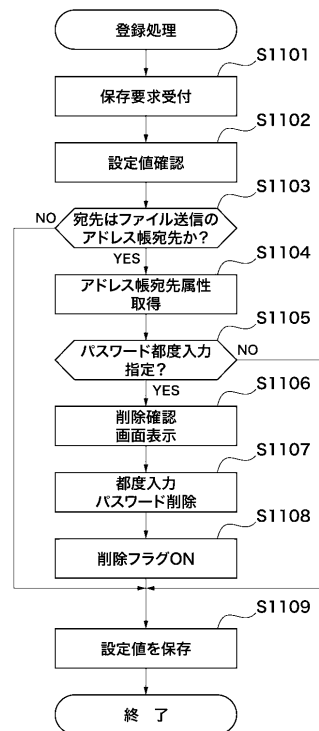
1004

パスワード:

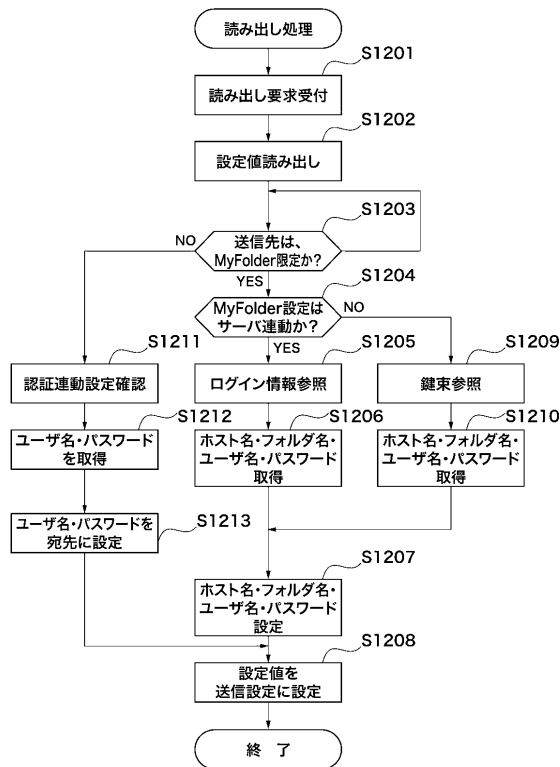
キャンセル

OK

【図 13】



【図 14】



【手続補正書】

【提出日】平成29年11月9日(2017.11.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

上記目的を達成するために、本発明におけるデータ送信装置は、サーバにデータを送信するデータ送信装置であって、前記サーバにデータを送信するためのアドレス情報、前記サーバにデータを送信するプロトコルを示す情報、送信されるデータのファイル形式を示す情報、及び、前記サーバがユーザを認証するための第1の認証情報を少なくとも入力する入力手段と、前記入力手段によって入力された、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を少なくとも含む設定情報を登録する登録手段と、前記登録手段で登録された設定情報を呼び出すための呼出指示をユーザから受け付ける呼出指示受付手段と、前記呼出指示受付手段によって呼出指示を受け付けて前記登録手段によって登録された前記設定情報に含まれる、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を設定し、前記データ送信装置にログインしたユーザのログイン情報を用いて取得した第2の認証情報を設定する設定手段と、を有することを特徴とする。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

サーバにデータを送信するデータ送信装置であって、

前記サーバにデータを送信するためのアドレス情報、前記サーバにデータを送信するプロトコルを示す情報、送信されるデータのファイル形式を示す情報、及び、前記サーバがユーザを認証するための第 1 の認証情報を少なくとも入力する入力手段と、

前記入力手段によって入力された、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を少なくとも含む設定情報を登録する登録手段と、

前記登録手段で登録された設定情報を呼び出すための呼出指示をユーザから受け付ける呼出指示受付手段と、

前記呼出指示受付手段によって呼出指示を受け付けて前記登録手段によって登録された前記設定情報に含まれる、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を設定し、前記データ送信装置にログインしたユーザのログイン情報を用いて取得した第 2 の認証情報を設定する設定手段と、

を有することを特徴とするデータ送信装置。

【請求項 2】

前記アドレス情報は、前記サーバのホスト名と前記サーバのフォルダ名であることを特徴とする請求項 1 に記載のデータ送信装置。

【請求項 3】

前記登録手段によって登録されるアドレス情報は、新規宛先であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のデータ送信装置。

【請求項 4】

前記プロトコルを示す情報は、ファックス送信を示すプロトコル、メール送信を示すプロトコル、及びファイル送信を示すプロトコルのいずれかであることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 5】

前記サーバはファイルサーバであることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 6】

前記第 1 の認証情報と前記第 2 の認証情報はパスワードであることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 7】

原稿の画像を読み取る読取手段を更に有し、

前記読取手段で読み取られた画像から生成されたデータを前記サーバに送信することを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 8】

前記第 1 の認証情報が登録されないことを通知する通知手段を更に有することを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 9】

前記第 1 の認証情報を含まない設定情報を登録するか、前記第 1 の認証情報を含む設定情報を登録するかを前記ユーザに問い合わせる問い合わせ手段を更に有することを特徴とする請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 10】

データを送信する度に前記ユーザから認証情報を受け付ける設定が前記データ送信装置にされている場合に、前記登録手段は、前記設定情報から前記第 1 の認証情報を削除して登録することを特徴とする請求項 1 乃至 9 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 11】

前記登録手段によって前記設定情報を登録する際に前記第 1 の認証情報としてユーザのログイン情報を保存する設定が前記データ送信装置にされている場合であっても、前記登

録手段は、前記設定情報から前記第 1 の認証情報を削除して登録することを特徴とする請求項 1 乃至 10 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 12】

前記呼出指示受付手段が前記呼出指示を受け付けることで、前記設定手段は、前記第 2 の認証情報を設定することを特徴とする請求項 1 乃至 11 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 13】

前記ユーザのログイン情報と前記第 2 の認証情報とを関連付けて記憶した記憶手段を更に有し、

前記設定手段は、前記ユーザのログイン情報を用いて前記第 2 の認証情報を取得する際に、前記記憶手段を用いることを特徴とする請求項 1 乃至 12 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 14】

前記ユーザは、前記データ送信装置にログインする際にカードリーダを使用することを特徴とする請求項 1 乃至 13 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 15】

前記設定手段は、前記呼出指示受付手段によって呼出指示を受け付けて前記第 2 の認証情報を設定することを特徴とする請求項 1 乃至 14 のいずれか 1 項に記載のデータ送信装置。

【請求項 16】

サーバにデータを送信するデータ送信装置の制御方法であって、

前記サーバにデータを送信するためのアドレス情報、前記サーバにデータを送信するプロトコルを示す情報、送信されるデータのファイル形式を示す情報、及び、前記サーバがユーザを認証するための第 1 の認証情報を少なくとも入力する入力ステップと、

前記入力ステップで入力された、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を少なくとも含む設定情報を登録する登録ステップと、

前記登録ステップで登録された設定情報を呼び出すための呼出指示をユーザから受け付ける呼出指示受付ステップと、

前記呼出指示受付ステップで呼出指示を受け付けて前記登録ステップで登録された前記設定情報に含まれる前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を設定し、前記データ送信装置にログインしたユーザのログイン情報を用いて取得した第 2 の認証情報を設定する設定ステップと、

を有することを特徴とするデータ送信装置の制御方法。

【請求項 17】

サーバにデータを送信するデータ送信装置の制御方法をコンピュータに実行させるためのプログラムであって、

前記データ送信装置の制御方法は、

前記サーバにデータを送信するためのアドレス情報、前記サーバにデータを送信するプロトコルを示す情報、送信されるデータのファイル形式を示す情報、及び、前記サーバがユーザを認証するための第 1 の認証情報を少なくとも入力する入力ステップと、

前記入力ステップで入力された、前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を少なくとも含む設定情報を登録する登録ステップと、

前記登録ステップで登録された設定情報を呼び出すための呼出指示をユーザから受け付ける呼出指示受付ステップと、

前記呼出指示受付ステップで呼出指示を受け付けて前記登録ステップで登録された前記設定情報に含まれる前記アドレス情報、前記プロトコルを示す情報、及び、前記送信されるデータのファイル形式を示す情報を設定し、前記データ送信装置にログインしたユーザのログイン情報を用いて取得した第 2 の認証情報を設定する設定ステップと、

を有することを特徴とするプログラム。